

日本アーカイブズ学会 2018年度大会



2018年 4月21日(土) 22日(日)

会場：東洋大学白山キャンパス

21日(土) 受付開始 12:30
総会 13:00～15:00

22日(日) 受付開始 9:30

○ 講演会 15:30～16:30

意思形成過程の公文書の作成・
保存と情報公開

宇賀克也

(東京大学大学院 法学政治学 研究科教授)



○ 懇親会 17:00～19:00

会場 2号館 16階 スカイホール

○ 賛助会員出展 13:00～16:30

○ 自由論題研究発表会 10:00～12:15

○ ポスター研究発表 13:00～14:00

○ 企画研究会シンポジウム 14:00～17:00

○ 賛助会員出展 10:00～15:30

企画研究会シンポジウム

アーカイブズとアカウンタビリティ

[報告1] 誰が誰への説明責任を担うのか：理念・制度・実態
川島真 (東京大学)

[報告2] 政府・自治体の情報公開とアカウンタビリティ：
「遡及的検証」の実現のために
古賀崇 (天理大学 人間学部総合教育研究センター教授)

[報告3] アカウンタビリティを支える公文書管理制度とレコードキーパー：
Australasianの公記録法の視点から
大木悠佑 (学習院大学大学院 アーカイブズ学専攻博士後期課程)

【会場】東洋大学 白山キャンパス 6号館 2階

〒112-8606 東京都文京区白山 5-28-20

都営地下鉄三田線白山駅、東京メトロ南北線本駒込駅下車(徒歩5分)

【参加費】会員 500円 / 非会員 1,000円

懇親会会費：一般 5,000円 / 学生 3,000円

事前申込不要

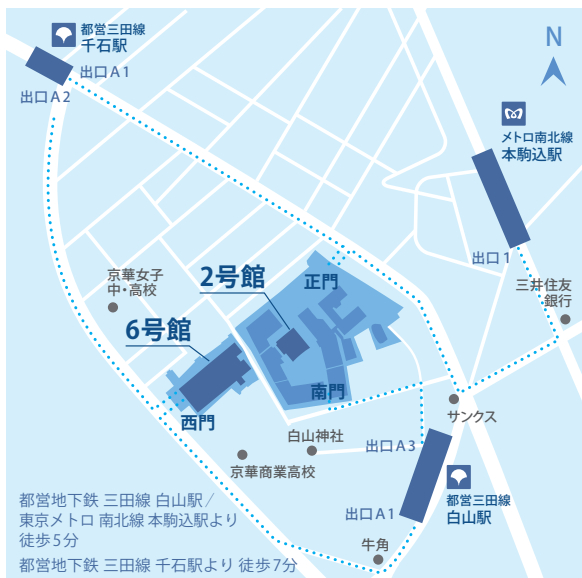
【問い合わせ先】

日本アーカイブズ学会事務局

〒105-0004 東京都港区新橋1-5-5 国際善隣会館 5階

E-mail: office@jsas.info FB: jsas.info Twitter: @jsas_info

www.jsas.info



都営地下鉄 三田線 白山駅 /
東京メトロ 南北線 本駒込駅より
徒歩5分

都営地下鉄 三田線 千石駅より 徒歩7分

日本アーカイブズ学会

2018年度大会 プログラム

*タイトル、時間、会場等は変更となることがあります。



4月21日(土) 受付開始 12:30

- **総会** 13:00~15:00 *会員の方のみが参加できます
- **講演会** 15:30~16:30
意思形成過程の公文書の作成・保存と情報公開
宇賀克也 (東京大学大学院 法学政治学研究科教授)
- **懇親会** 17:00~19:00 (会場: 2号館 16階スカイホール、会費: 一般 5,000円/学生 3,000円)
- **賛助会員出展** 13:00~16:30

4月22日(日) 受付開始 9:30

- **自由論題研究発表会** 10:00~12:15

第1会場

まんがアーカイブズ利用に向けた Finding Aids に関する一考察 / 蓮沼素子
民間団体アーカイブズの整理・編成・記述のこころみ: 日本力行会を事例として / 青木祐一・名村優子
公文書から社史に描かれた企業活動を読み解く—国立公文書館収蔵の企業関連資料の調査分析を事例として— / 清水ふさ子
第二次世界大戦敗戦直後における日本の民間所在資料の状況—「近世庶民史料所在調査」調査書の分析を中心に— / 水島和哉

第2会場

大学アーカイブズと大学美術館アーカイブズの関係を人的ネットワークから読み解く—ハーバード大学調査報告— / 筒井弥生
アーカイブズ学に基づく建築レコード整理の実践—米国型技法を用いた京都大学での試み / 齋藤歩
大学アーキビストが行う研究について考える / 菅真城
市民視座による文書館の利用概念のパラダイムシフト—文書館制度の理念型に関する一試論— / 柴田知彰

- **ポスター研究発表** 13:00~14:00

レファレンスサービス向上に関する一考察—Archival Reference Knowledge モデルの紹介— / 岡崎彩香
アーカイブズの資料保存における専門職連携—村井吉兵衛資料を事例として / 川田恭子
言語資料に含まれる個人情報の取り扱いに関する研究—国立国語研究所研究資料室の事例を中心に— / 高田智和、関川雅彦
オーラル・ヒストリーのアーカイブズ学研究の可能性
—「半自伝」オーラル・ヒストリーと自伝オーラル・ヒストリーの対比を通して— / 新嶋聡
高度成長期の地域記録史料としての“政策ニュース映画”の保存と公開—川崎市政ニュースを例に— / 春木良且

- **企画研究会シンポジウム** 14:00~17:00

テーマ: アーカイブズとアカウンタビリティ

[報告1]

誰が誰への説明責任を担うのか: 理念・制度・実態 / 川島真 (東京大学)

[報告2]

政府・自治体の情報公開とアカウンタビリティ: 「遡及的検証」の実現のために / 古賀崇 (天理大学 人間学部総合教育研究センター教授)

[報告3]

アカウンタビリティを支える公文書管理制度とレコードキーパー: Australasian の公記録法の視点から / 大木悠佑 (学習院大学大学院 アーカイブズ学専攻博士後期課程)

ファシリテーター: 平野泉 (立教大学 共生社会研究センター)

- **賛助会員出展** 10:00~15:30